

ムラカミ ヲスミチ
村上 裕道 教授

文学部 歴史遺産学科

■ 研究業績等

【著書】

- ・著書 「『歴史文化を活かすまちづくり』を展示する」日本展示学会（共著）:2017/09
- ・著書 「播磨辞典 上」（共著）:2016/06
- ・著書 「播磨辞典 下」（共著）:2016/09

【論文】

- ・学術論文 「文化庁のまちづくり・観光に関わる施策について—文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用のあり方について（第1次答申）を踏まえて—」史跡等を活かした地域づくり・観光振興（平成29年度 遺跡整備・活用研究会報告書）独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所（共著）:2018/12
- ・学術論文 「Protection Measures of Cultural Heritage against Large-Scale Disaster -Necessity of Multilayered Areal Mutual Support System-」2017年文化遺産の災害対策国際会議 韓国文化財庁（共著）:2017/06
- ・学術論文 「歴史文化が地域の持続性に果たす役割—阪神淡路大震災の経験から—」ICOMOS INFORMATION 10(3)（共著）:2016/09

【学会発表】

- ・Lessons in the Strengthening and Reinforcement of Historic Buildings following the Great Hanshin Earthquake (International Conference held by UNESCO) :2002/11
- ・Lessons in the Strengthening and Reinforcement of Historic Buildings following the Great Hanshin Earthquake (EARTHQUAKE SAFE International Conference on the Seismic Performance of Traditional Buildings) :2000/03
- ・日本阪神大震災後政府之歴史建築抢救策略（中華民国行政院文化建設委員会・震災地区文化資産抢救工作）:2000/03

キーワード

文化財建造物の活用

対応可能なもの 講演 研修 研究相談(学術指導) 学術調査 コメンテーター 共同研究・受託研究人口減少地に所在する文化財建造物（未指定も含む）の
自立的維持システムの構築

研究の概要

中山間地域に所在する文化財建造物等の維持管理が困難となっています。このまま放置すれば現行の文化財保護政策が瓦解する懸念があり、有効な活用策の提言が求められています。本研究は、中山間地域において無住となり、周囲の者が滅失の恐れのあることを危惧し、何とか対応を取ろうと考えている物件について、文化財等建造物の再生モデルを策定しようとするものです。

2021年度に、設計事務所（神戸文化財研究所・才本建築事務所）他有志で、一般社団法人文化財創造機構（俗称：HERITA）を設立し、2021年度から重要文化財（建造物・美術工芸品）修理事業費国庫補助を受け、重要文化財 林家住宅（岡山県美作市）の保存修理工事に着手しました。本年度には保存修理工事を竣工し、地元の方々と宿泊し宿泊施設としての利活用をスタートする計画です。

研究の詳細

研究・技術のプロセス 研究事例 研究成果 使用用途・応用例 今後の展開

2021年度から文化財建造物の活用事業（現行、宿泊施設の計画）にかかる国庫補助の採択を受け、地元と共同した上質な大庄屋を活用したオーベルジュの実例を創造中です。

2020年度には、代表に沢田伸（ひょうごヘリテージ機構 H2O 初代代表世話人）氏を迎え、事業の実施主体であるHERITAを設立しました。現在は、コロナ禍の事後の状況を勘案しつつ、美作市周辺の活用グループとの共同作業の準備を進めており、文化財建造物の保存事業と活用事業が調和する実例がまもなくできあがります。

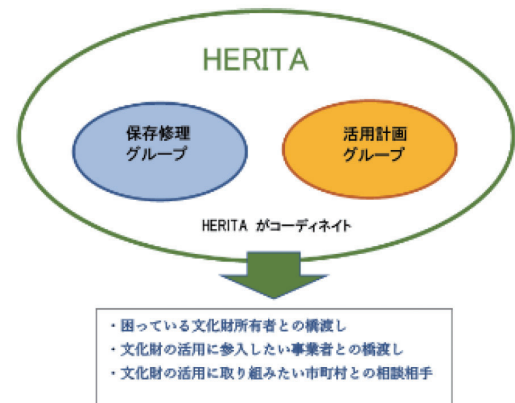


図 HERITA 機能図

産学官連携先に向けた
アピールポイント

・維持困難な身近な文化財（歴史的）建造物の利活用を行う新たな職種・組織の確立